

■使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト: CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要		建物名称	(仮称)コーナンPRO小倉北区明和町店新築工事	BEE	1	BEEランク	B+	★★★
---------------	--	------	-------------------------	-----	---	--------	----	-----

2 重点項目への取組み度							
重点項目		得点※/満点		取組み度		評価	
1	循環型社会への貢献	3.0	/5	  		ふつう 	
2	地球温暖化対策の推進	2.4	/5	  		がんばろう 	
3	豊かな自然環境の確保	2.0	/5	 		がんばろう 	
4	高齢社会への対応	3.0	/5	  		ふつう 	
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0＝1点、スコア5.0＝5点)				評価 凡例			
				よい 4 点以上		ふつう 3 点以上 	がんばろう 3 点未満 

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア				使用CASBEE評価マニュアル	CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト	CASBEE-BD_NC_2016(v.4.0)
1 循環型社会への貢献		スコア平均		3.0			
リサイクルに関する配慮		長寿命化に関する配慮					
LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減		スコア	2.6	Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数		スコア	3.1
				Q2/ 3 対応性・更新性		スコア	3.3
LGS下地を採用		階高5.807m					
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均		2.5			
省エネ・省資源に関する配慮		節水に関する配慮					
LR3/ 1 地球温暖化への配慮		スコア	3.9	LR2/ 1.1 節水		スコア	1
ライフサイクルCO2排出率76%		<自由記述>					
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均		2.0			
生態系保全に関する配慮		緑化に関する配慮					
Q3/ 1 生物環境の保全と創出		スコア	1	Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上		スコア	2
				LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善		スコア	3
<自由記述>		見付面積比 15.20%					
4 高齢社会への対応		スコア平均		3.0			
バリアフリーに関する配慮		主な指標					
Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画		スコア	3	建物の外皮性能(BPI評価)			
				非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級		0.88	
<自由記述>				建物の一次エネルギー消費量(BEI評価)			
				非住宅:BEI値、住宅: -		0.74	
				外構緑化指数		0 %	
				建物緑化指数		0 %	

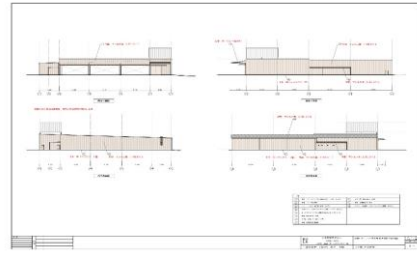
: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)コーナンPRO小倉北区明和町	階数	地上1F
建設地	福岡県北九州市小倉北区明和町10	構造	S造
用途地域	防火地域	平均居住人員	110 人
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年11月 予定	評価の実施日	2022年5月18日
敷地面積	5,204 m ²	作成者	高原 大輔
建築面積	2,660 m ²	確認日	2022年5月18日
延床面積	2,660 m ²	確認者	高原 大輔



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.0 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★	標準計算 30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★ ①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外の ④上記+ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)			
Q 環境品質			
Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.1	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.0	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 1.8	Q のスコア= 2.7
LR 環境負荷低減性			
LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.8	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.5	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.5	LR のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
高い外皮性能、効率の良い設備機器を使用しており、エネルギー消費、環境負荷低減になるよう設計されている。		特になし。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
全面的にF★★★★を使用している。	天高、階高にゆとりがあり、利用者にとって広く感じる空間になるよう努めている。	建物がまちなみや風景にバランスよく調和されている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
高い外皮性能を高め、建築物を運用する際に発生するエネルギー消費を低減する取り組みに努めている。	LGS下地を採用している。	ライフサイクルCO ₂ の排出量が、一般的な建築物と同等であり、地球温暖化への配慮を行っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)コーナンPRO小倉北区明和町店新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								2.7
Q1 室内環境					0.40	-	-	3.1
1 音環境				3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 室内騒音レベル		-		3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音		-		3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		-		3.0	1.00	-	-	
2 界壁遮音性能		-		-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-		-	-	-	-	
1.3 吸音		-		3.0	0.20	-	-	3.0
2 温熱環境				3.0	0.35	-	-	
2.1 室温制御				3.1	0.50	-	-	
1 室温		-		3.0	0.50	-	-	
2 外皮性能		加重平均レベル4.2		4.0	0.17	-	-	
3 ゾーン別制御性		-		3.0	0.33	-	-	
2.2 湿度制御		-		3.0	0.20	-	-	3.0
2.3 空調方式		-		3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境				3.0	0.25	-	-	3.0
3.1 昼光利用				3.0	0.50	-	-	
1 昼光率		-		-	-	-	-	
2 方位別開口		-		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		-		3.0	1.00	-	-	
3.2 グレア対策		-		-	-	-	-	
1 昼光制御		-		-	-	-	-	
3.3 照度		-		-	-	-	-	3.0
3.4 照明制御		-		3.0	0.50	-	-	
4 空気質環境				3.5	0.25	-	-	3.5
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		ほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用		4.0	1.00	-	-	
4.2 換気				3.0	0.30	-	-	
1 換気量		-		3.0	0.50	-	-	
2 自然換気性能		-		-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		-		3.0	0.50	-	-	
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-	3.0
1 CO ₂ の監視		-		3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		-		3.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.0
1 機能性				2.9	0.40	-	-	2.9
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		-		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		-		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				2.6	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		売場部分の天井高3.6m以上		5.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース		-		2.0	0.33	-	-	1.0
3 内装計画		-		1.0	0.33	1.0	-	
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	3.0
1 維持管理に配慮した設計		-		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		-		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				2.8	0.30	-	-	2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		-		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.1	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		-		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔		-		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔		-		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		ステンレスを採用		4.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		-		3.0	0.20	-	-	2.0
2.4 信頼性				2.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		-		3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		-		1.0	0.20	-	-	
3 電気設備		-		1.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		-		3.0	0.20	-	-	2.0
5 通信・情報設備		-		2.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性			3.3	0.30	-	-	3.3
	3.1 空間のゆとり		4.2	0.30	-	-		
		1 階高のゆとり	階高 5.807m	5.0	0.60	-	-	
		2 空間の形状・自由さ	-	3.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり	-	3.0	0.30	-	-		
	3.3 設備の更新性		3.0	0.40	-	-		
		1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
		2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
		3 電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
		4 通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
		5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
		6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
	Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	1.8
	1	生物環境の保全と創出	-	1.0	0.30	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮	-	2.0	0.40	-	-	2.0	
3	地域性・アメニティへの配慮	-	2.5	0.30	-	-	2.5	
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50	-	-		
	3.2 敷地内温熱環境の向上	-	2.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.3	
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.8	
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.88	4.2	0.20	-	-	4.2	
2	自然エネルギー利用	-	3.0	0.10	-	-	3.0	
3	設備システムの高効率化	BEI=0.74	4.2	0.50	-	-	4.2	
4	効率的運用	-	3.0	0.20	-	-	3.0	
	集合住宅以外の評価	-	3.0	1.00	-	-		
	4.1 モニタリング	-	3.0	0.50	-	-		
	4.2 運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-		
	集合住宅の評価	-	-	-	-	-		
	4.1 モニタリング	-	-	-	-	-		
	4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.5	
1	水資源保護	-	2.2	0.20	-	-	2.2	
	1.1 節水	-	1.0	0.40	-	-		
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用	-	3.0	0.60	-	-		
	1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-		
	2 雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-		
2	非再生性資源の使用量削減	-	2.6	0.60	-	-	2.6	
	2.1 材料使用量の削減	-	2.0	0.10	-	-		
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-		
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-		
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-		
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	2.0	0.10	-	-		
	2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み	LGS下地を採用	4.0	0.20	-	-		
3	汚染物質含有材料の使用回避	-	2.7	0.20	-	-	2.7	
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30	-	-		
	3.2 フロン・ハロンの回避	-	2.6	0.70	-	-		
	1 消火剤	-	2.0	0.33	-	-		
	2 発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.33	-	-		
	3 冷媒	-	3.0	0.33	-	-		
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5	
1	地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率76%	3.9	0.33	-	-	3.9	
2	地域環境への配慮	-	3.5	0.33	-	-	3.5	
	2.1 大気汚染防止	燃焼機器を使用していない	5.0	0.25	-	-		
	2.2 温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50	-	-		
	2.3 地域インフラへの負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-		
	1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-		
	2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-		
	3 交通負荷抑制	建物利用者のための適切な量の自転車置場の確保	5.0	0.25	-	-		
	4 廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.25	-	-		
3	周辺環境への配慮	-	3.1	0.33	-	-	3.1	
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止	-	3.0	0.40	-	-		
	1 騒音	-	3.0	0.33	-	-		
	2 振動	-	3.0	0.33	-	-		
	3 悪臭	-	3.0	0.33	-	-		
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制	-	3.0	0.40	-	-		
	1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-		
	2 砂塵の抑制	-	1.0	-	-	-		
	3 日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-		
	3.3 光害の抑制	-	3.7	0.20	-	-		
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「広告物照明の扱い」の配慮事項の一部を満たす	4.0	0.70	-	-		
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-		